

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

将来どのような分野に進むにせよ、臨床医として日常診療で遭遇するであろう皮膚科学的疾患に十分対応できるよう、基本的な臨床能力を身につける。

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

皮膚科学的疾患に対する基礎的理解を深め、その診断、治療などについて以下の項目を中心に研修し、修得する。

### 1. 皮膚科学総論

皮膚の構造と機能を理解する。

皮膚の生理学、生化学を理解する。

### 2. 皮膚疾患の診断と検査

#### ① 一般診断学

皮膚科における問診法、現症の記載法に熟知し、修得する。

#### ② 発疹学

発疹について記載皮膚科学上必要な用語を熟知し、修得する。

#### ③ 皮膚病理組織学

皮膚病理の必要性、通常行われる組織染色法を理解し、修得する。

#### ④ 一般的検査法

#### ⑤ 皮膚科学的検査法

皮膚科学的検査を理解し、行うことができるように努力する。

臨床写真を適切に撮影できるよう修得する。

### 3. 治療

#### ① 全身療法

抗生物質、抗菌剤、副腎皮質ホルモン、抗腫瘍剤などについて理解し、修得する。

#### ② 局所外用療法

皮膚外用剤の適応を理解し、修得する。

スキンケア(消毒、入浴、石鹸、保湿など)について理解し、修得する。

粘膜病変に対する外用療法を理解し、修得する。

#### ③ 局所理学療法

光線療法の理解と種類、適応疾患を理解し、修得する。凍結療法を実施し、修得する。

レーザー、電気凝固療法などの治療法を理解し、修得する。

#### ④ 皮膚外科

一般外科の基本の上にならって皮膚外科切除法、縫合法を実施し、修得する。各種植皮法を理解する。

## III. 方略 (Learning Strategies)

1. 指導医または上級医師とともに入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 指導医・上級医師のもとで外来患者の診察を経験する。初診患者の予診、診察見学、真菌検査等各種検査の見学及び手技を学ぶ。
3. 指導医・上級医師とともに検査・治療に参加する。手術患者については点滴の管理、手術助手として参加し、外科手術手技の基本を学ぶ。
4. 勉強会・カンファランスに参加し、症例提示し、積極的に討議する。

## IV. 経験できる疾患・手術など

### 経験できる症例:

湿疹・皮膚炎(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎含)、皮膚腫瘍、薬疹、蕁麻疹、紅斑症、水疱症、膿疱症、乾癬、角化症、皮膚感染症、色素異常症、全身疾患に伴う皮膚疾患 等

### 経験できる手術など:

皮膚生検、皮膚腫瘍切除術、皮膚悪性腫瘍切除術、リンパ節郭清術、植皮術、皮弁作成術、レーザー治療 等

## V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例発表による自己評価・指導医評価。  
指導医・看護師などによる形成的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 名嘉真 武国
2. 指導責任者 石井 文人
3. 指導医 猿田 寛、武藤 一考
4. 研修施設 久留米大学病院

## VII. 週間予定

- |   |        |              |
|---|--------|--------------|
| 月 | 8:30～  | 教授回診         |
|   | 9:00～  | 外来・病棟研修      |
|   | 14:00～ | 病棟・手術カンファランス |
| 火 | 8:30～  | 病棟・外来研修      |
| 水 | 8:30～  | 病棟・外来研修      |
| 木 | 8:30～  | 手術・外来研修      |
|   | 16:00～ | 組織・総合カンファランス |
| 金 | 8:30～  | 病棟・外来研修      |
| 土 | 8:30～  | 病棟研修         |

